

富士山噴火を想定、DMAT100 チーム参集 関東ブロック D M A T 訓練in神奈川

関東で大規模地震が発生、その後富士山が噴火するという想定で11月25、26の両日、神奈川県全域を会場にして関東ブロックDMAT訓練が行われました。訓練には、日本赤十字社や消防、海上保安庁、横浜地方気象台とともに1都6県の関東ブロックのDMAT約100チームが参加しました。

11月24日午後9時ごろ、関東地方でマグニチュード8.2、最大震度7の地震が発生。神奈川県西部から東部を中心に県内全域が被災したという想定で訓練がスタート。城西病院DMATは、25日午前5時、圏央道厚木パーキングを経て、相模川以西区域DMAT調整本部となった東海大学附属病院に向かいました。

調整本部では、情報分析チームとして活動を開始しました。今回の訓練で、神奈川県庁が本部となり、横浜市、川崎市、相模原市などに調整本部を設置。相模川以西区域調整本部は神奈川県域の西側半分の膨大なエリアでの通信や道路状況、被害状況などの情報収集や区域内に置かれた拠点病院の情報収集、DMATの派遣、患者の搬送指示などを実施。調整本部に到着し、早速、区域内の拠点病院の被害状況や応援の必要性の有無、ライフライン確保の状況などを衛星電話やネットを活用して行いました。

2日目に入ると、午前10時5分、富士山噴火の一報が入りました。上空1万mまで噴煙が上がり、周辺30^{km}の範囲で火山灰が流れるとの情報が入りました。情報分析チームは、まず区域内の拠点病院の状況について把握するとともに、派遣しているDMATチームの安否確認とともに安全な場所に避難する指示を出しました。その後、足柄地区に溶岩流が流れるとの情報とともに、1時間後には東海大学附属病院付近にも降灰するというこれまで例のない状況下で、DMATとしてどう対応するのかを話し合いました。

まず、通信手段の確保、移動手段の確保に努め、自力で確保できない場合は自衛隊などに要請する。一方で、安全を確保するために施設内に籠城するなどの意見も出ました。最悪の場合には拠点病院などからの撤退するべきという意見も出され、撤退に伴う移動手段



の確保など、難しい問題について真剣に議論を行い、訓練を終了しました。

2023年11月27日



©Tasseido group

